

「プロゴルフ・トーナメントの環境影響評価」

評価実施者：(株)電通 電通総研 比留間 雅人

東京都市大学 山口博司

● 評価の目的と対象の特徴

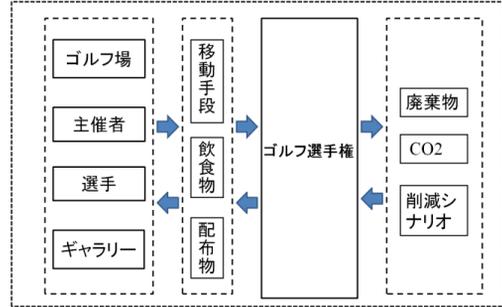
- プロゴルフ・トーナメント実施に伴う環境影響について、概要を把握すること。
- スポーツイベントの環境影響評価手法開発に向けた課題と、利用方法を検討すること

期間・場所	一週間（うち練習日2日間。本大会4日間）／最寄り駅徒歩圏ではない会場を想定（北関東エリア）。
参加者	選手：125名／アマチュア選手：100名 ギャラリー：20180名 ボランティア：445名／大会関係者：260名
評価範囲	大会前、開催中、大会後、すべてのプロセスを対象（詳細は後述）

● 機能単位とシステム境界

機能単位：機能単位：プロゴルフ・トーナメント一回分のライフサイクル全体から生じる環境負荷の、関係者（ギャラリー、選手、運営スタッフ等）一人当たりの量。

システム境界：関係者移動・大会実施・廃棄まで



● 調査方法

<インベントリ分析>

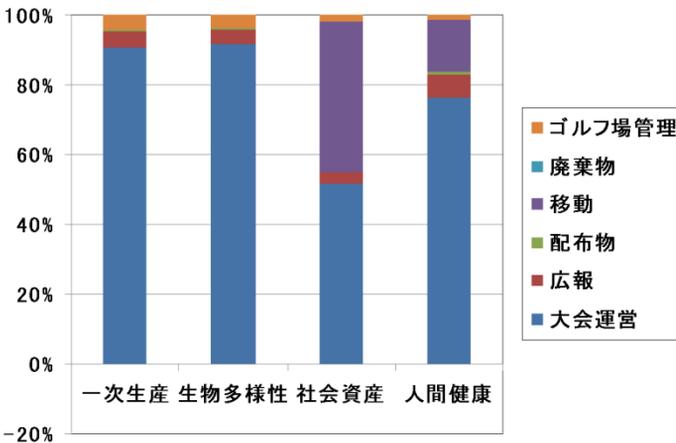
- フォアグラウンドデータ：大会予算表・運営マニュアルほか
- バックグラウンドデータ：産業連関表に基づく環境負荷データ(3EID、都市大及び産総研作成のデータベース、移動は国交省・環境省の統計データを用いた。

<インパクト評価>

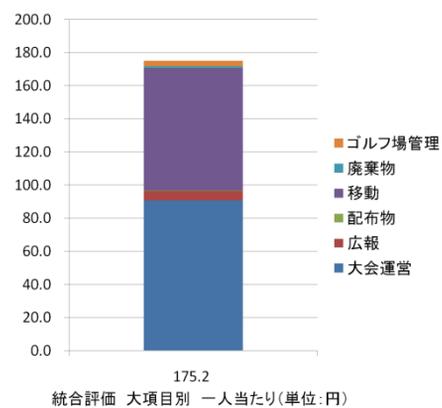
- LIME2

● 評価結果

【被害評価結果(トーナメント大項目別)】



【統合化結果(トーナメント大項目別別)】



- 「大会運営」の影響が相対的に大きい
- 「人間健康」では、「移動」や「広報」の寄与も相対的に大きい。

- 統合化の結果は約175円(大会全体約370万円)
- 大会運営が91円(大会全体192万円)、移動74円(大会全体156万円)

「広報(印刷)」では削減余地あり。大会運営・移動は困難か？